EUR / USD ユーロドル 月次レポート

前月振り返りと2026年11月の相場展望

発行日	対象期間	通貨ペア	発行頻度
November 5, 2026	10月実績 ／ 11月展望	EUR / USD	Monthly

10月末レート（終値）

1.11595

-1.49%　（10月月間騰落率）

10月高値	10月安値
1.13366	1.11044
ECB金利	**FED金利**
2.50%	3.75–4.00%

今月のハイライト

- 10月は**1.13288でスタートし、1.11595で引け、月間-1.49%**のユーロ安・ドル高となった。月中安値は1.11044
- **FOMCは10/27-28に政策金利を3.75%–4.00%で据え置き**（政策発表は日本時間10/29早朝）（賛成10対反対2）。反対した2名は0.25%の利上げを主張した
- **ECBは10/28-29に3つの主要政策金利を据え置き**（預金ファシリティ金利2.50%）。同日、ラガルド総裁が2027年2月に退任することが発表された
- 計算上の米欧金利差（Fed上限4.00%－ECB預金金利2.50%）は1.50ppと前月と同水準。Fedの12月利上げ観測がドルを支えた可能性がある

11月 基本シナリオ レンジ

1.100 – 1.130

11月はFed・ECBとも会合予定なし（次回はFOMC 12/8-9〈日本時間12/10早朝発表〉、ECB 12/16-17）

米欧政策金利差

1.50pp

Fed上限4.00%－ECB預金金利2.50%（上限ベース）。計算上の単純比較で為替の方向を保証するものではない

For Information Purposes Only

EUR / USD

2026年10月　相場振り返り

10月末レート
1.11595
▼ -1.49%

始値	高値	安値	月間騰落
1.13288	**1.13366**	**1.11044**	**-1.49%**
10月最初の取引日	月中最高値	月中最安値	-0.01693

10月の相場動向

10月のユーロドルは**1.13288でスタート**し、月中は**1.11044〜1.13366**のレンジで推移した。10/27-28のFOMC（政策発表は日本時間10/29早朝）では政策金利が据え置かれたが、2名の参加者が利上げを主張して反対し、声明ではインフレが依然高い水準にあるとの認識が示された。市場では12月の利上げを見込む見方が多いとされ、こうした観測がドルを支えた可能性がある。

10/28-29のECB理事会では3つの主要政策金利がいずれも据え置かれ、同日にはラガルド総裁が2027年2月7日に退任することが発表された。計算上の米欧金利差（Fed上限4.00%－ECB預金金利2.50%）は1.50ppと前月と同水準で、ユーロドルは**1.11595で引け、月間-1.49%**となった。

主要イベントの影響

EU ECB 10月28〜29日 据え置き

- **ECBの3つの主要政策金利（預金ファシリティ2.50%・主要リファイ2.65%・限界貸出2.90%）をいずれも据え置き**
- 9月の利上げ後の影響を見極める形となった。ECBは同日、ラガルド総裁が2027年2月7日に退任すると発表した（任期満了は2027年10月の予定だった）
- 一部の市場参加者の間では、12月会合（12/16-17）での追加利上げを見込む見方もある

US FOMC 10月27〜28日 据え置き（日本時間10/29早朝発表）

- **政策金利を3.75%–4.00%で据え置き**（賛成10対反対2）。9月の利上げ後、初の据え置き
- 反対した2名の参加者は0.25%の利上げを主張。声明ではインフレが依然高い水準にあるとの認識が示された
- Warsh議長は物価目標への回帰を重視する姿勢を示したとされる一方、12月の判断について明確な示唆は避けたと報じられた。次回会合は12/8-9（政策発表は日本時間12/10早朝）

10月の総括

10月はFed・ECBがともに政策金利を据え置いた。Fedでは2名が利上げを主張し、12月の利上げ観測がドルを支えた可能性がある一方、ECBでは総裁の退任発表もあった。計算上の米欧金利差は1.50ppと前月と同水準で、ユーロドルは月間-1.49%と下落した。12月の両中銀会合に向けた観測の変化が、今後の方向性を見極める材料となりうる。

EUR / USD

2026年11月　相場展望

10月末終値
1.11595
10月末時点

11月の注目ポイント

11月は**Fed・ECBともに金融政策会合が予定されていない**（次回はFOMCが12/8-9〈政策発表は日本時間12/10早朝〉、ECBが12/16-17）。ユーロドルは、米欧のインフレ・景気指標や要人発言を通じた12月会合の利上げ観測の変化の影響を受けやすいとみられる。市場では両中銀とも12月の追加利上げの可能性を意識する見方があり、どちらの観測がより強まるかが方向性を見極める材料となりうる。11/3の米中間選挙では民主党が上下両院で過半数を確保する見通しと報じられており、議会構成の変化が米国の財政・金利見通しに与える影響や、ECB総裁の後任人事を巡る報道にも留意したい。

シナリオ別レンジ予測

ユーロ強気	25%	ECBの12月利上げ観測が強まる、またはFedの観測が後退しユーロ反発	1.120 – 1.140
基本	50%	Fed・ECBとも会合がなく、指標にらみのレンジ推移	1.100 – 1.130
ユーロ弱気	25%	米指標の上振れでFedの12月利上げ観測が一段と強まりドル高	1.090 – 1.110

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
Fedの12月利上げ観測の強まり	中	ユーロ安	米指標が上振れすれば利上げ観測が強まり、他の条件が一定であればドル高・ユーロ安要因となりうる
ECBの12月利上げ観測	中	ユーロ高	インフレが高止まりすれば、ECBの追加利上げ観測がユーロを支える可能性
ECB総裁の後任人事を巡る不透明感	中	両方向	後任候補の政策スタンスを巡る報道がユーロの変動要因となる可能性
米中間選挙後の議会構成の変化	中	両方向	上下両院で民主党が過半数を確保する見通しと報じられた。財政・金利見通しの変化がドルの変動要因となる可能性

11月の見通し

基本シナリオは**1.100〜1.130のレンジ**とみている。計算上の米欧金利差（Fed上限4.00%－ECB預金金利2.50%）は1.50ppで米側が優位な状況が続いており、上値では戻り売りも意識されやすい。11月は両中銀とも会合がなく、12月会合に向けた利上げ観測の強弱と米欧の経済指標が主な材料となりそうだ。

用語解説

Fed / FOMC
米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。10/27-28会合（政策発表は日本時間10/29早朝）で3.75%–4.00%を据え置き（賛成10対反対2）。次回は12/8-9（政策発表は日本時間12/10早朝）。

ECB（欧州中央銀行）
ユーロ圏21カ国の中央銀行。10/28-29理事会で3つの主要政策金利を据え置き（預金ファシリティ金利2.50%）。次回は12/16-17。

SEP / ドットプロット
FOMCが四半期ごとに公表する経済見通し。9月版では2026年末の政策金利中央値が4.125%と示された。次回の公表は12月会合の予定。

政策金利 / 金利差
中央銀行が設定する基準金利。Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差は計算上の単純比較で1.50pp（為替の方向を保証するものではない）。

HICP
ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

フォワードガイダンス
中央銀行が将来の政策方針を事前に示す情報発信。足元のFedは、先行きの金利経路について明確な示唆を控える傾向があるとされる。

免責事項
- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようにお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。